

児童精神科の現状と課題

北九州市立総合療育センター

児童精神科 山口若菜

今日お伝えしたいこと

- ▶ 当センター児童精神科について
 - 現状
 - 課題
- ▶ 今後のこと
 - これからやろうとしていること
 - (必要性があると考えていること)

現状の前に・・・

＜北九州市、近隣地域の現状＞

- ・ 児童精神科を標榜している病院は当センターを含めて数件のみ。
多くは小児科が診ている。
- ・ **精神科は18歳以上なら、発達障害の患者さんの
外来受け入れ可の所が多くなった。**
しかし、中学生以下は難しい・・・
- ・ 入院は市内は厳しい。市外、県外にお願いするケースが多い。

現状



現状

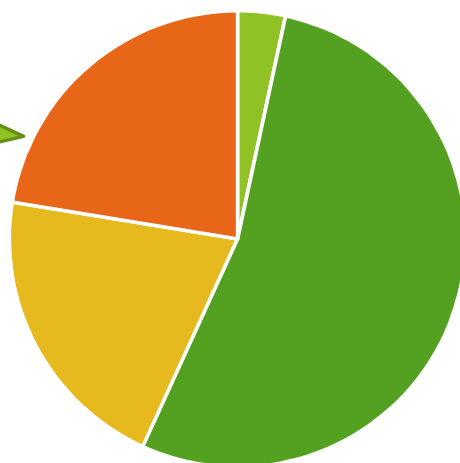
児童精神科だけど・・・

おとなが 30%

現状

受診者年齢内訳

総患者数595人中
133人が19歳以上



■ 10歳以下 ■ 11~15歳 ■ 16~18歳 ■ 19歳以上

現状

▶ なぜか？

「便利だから」

家から近い

診断書代が安いから

ずっと通っているから

リハビリも通っているから etc...

「不安だから」

**当センター以外でも、十分に対応が可能な
安定しているケース**

現状

今、困っているんだけど・・・

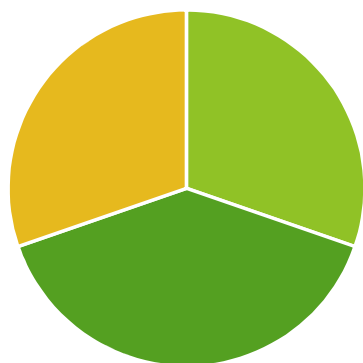
新患待機期間が3ヶ月

現状

▶ 新患の受け入れ 新患枠 1人/日

他院・他科からの紹介、緊急を要するケース 1人/日
(今年度から)

新患受診ルート



- 他院・他科からの紹介
- 学校等関係機関からの紹介
- 本人から

不登校；42%
問題行動；46%
その他，12%

課題



課題

- ▶ 新患待機期間が長い
- ▶ 緊急の対応ができない
- ▶ 地域との連携が限定的

今後のこと



今後のこと

- ▶ 新患待機期間が長い

目標；1ヶ月

対策；19歳以上の患者様を
他院に順次ご紹介していく

(保護者の高齢化に伴う問題もあり、地域に支援ネットワークを構築すべき)

今後のこと

- ▶ 緊急の対応ができない
目標；緊急枠の設置

対策；前述と同様

診察の効率化（20⇒35人弱/日に）

今後のこと

- ▶ 地域との連携が限定的

目標 ; ①はじめてコースの拡充

②関係機関とのネットワーク構築

今後のこと

▶ はじめてコースとは？

＜保護者向け勉強会＞

対象；発達障害のこどもの保護者

目的；特性の整理、理解と対応のコツを知る

他の保護者の話を聞くことで、

保護者自身の心理的なサポートになる

保護者の障がい受容の支援

今後のこと

<今後のスケジュール>

2019年

- はじめてコースの試験的实施
- 課題の抽出と対応策の検討

2020年

- はじめてコースの院内での定着化

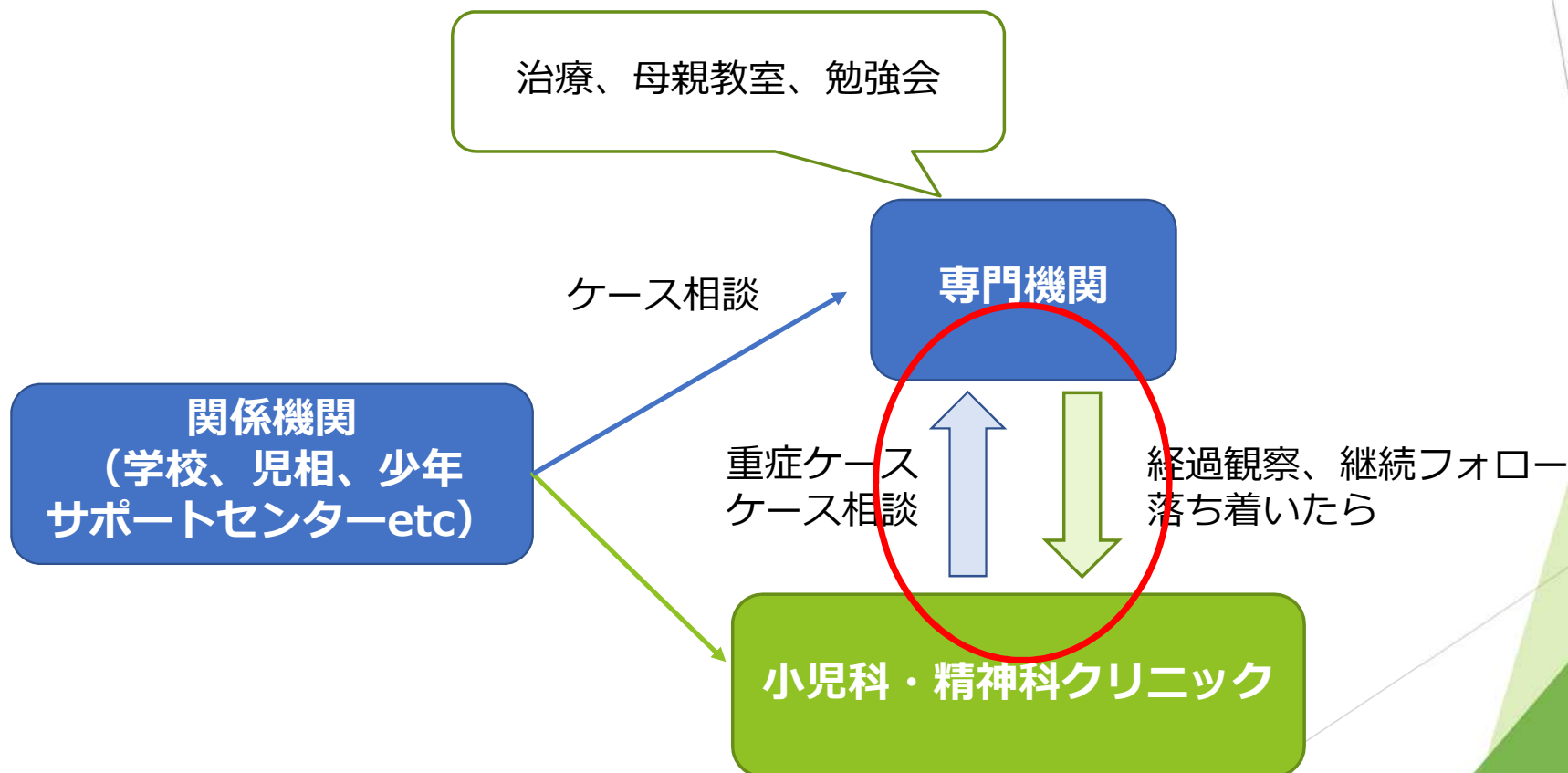
2021年

- 院外（小児科医院、関係機関など）向けの試験的实施
- 数回に1回、講話を試験的に実施

不登校、ゲーム・スマホ依存

今後のこと

<関係機関ネットワークの例>



今後のこと

▶ 実は・・・

関係機関とのネットワーク構築は
前からニーズがあった

なぜ、ないのか？

今後のこと

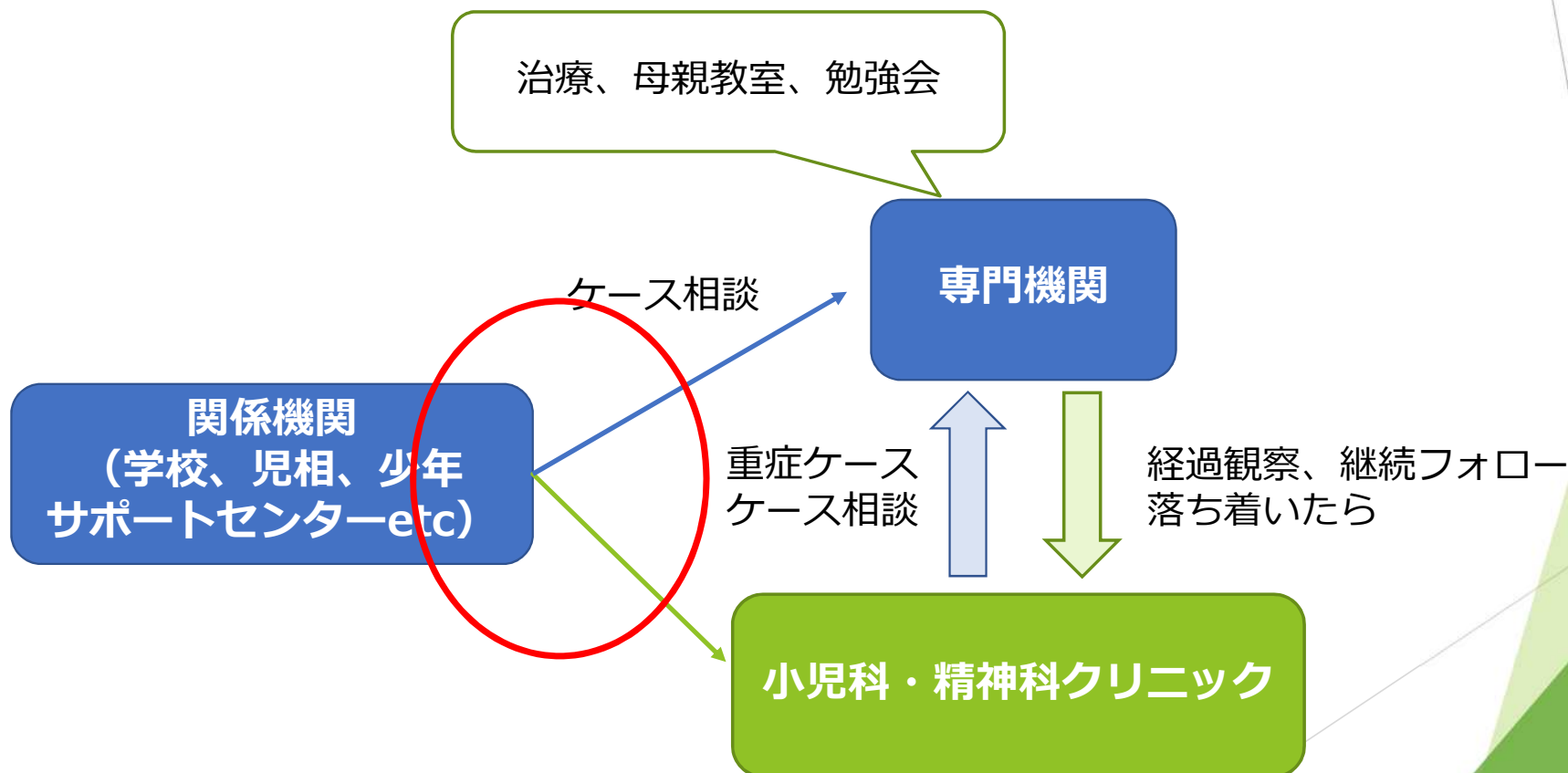
▶ 原因

- ・ システム化されていないから
- ・ 不安
 - 対応スキルへの不安
 - マンパワーの不安
 - 紹介先に対する不安 etc

顔の見える関係作り。
小児科の先生方との勉強会など。
個人的なパイプ⇒システム化

今後のこと

<関係機関ネットワークの例>



今後のこと

- ▶ トリアージを誰が、どのようにするのか？
 - ・ 学校の先生？ ⇒ 「とりあえず療育センターへ」
医療になかなか繋がらないケース
 - ・ SC？
 - ・ SSW？

明確な指標を作り、普及する

今後のこと



T式ひらがな音読支援アプリ

例) 東京都の場合

<小学1年生 ; 学校での評価⇒アプリで練習>



<小学2年生 ; 評価の結果⇒通級>



<医療機関へ紹介>

ありがとうございました

